



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/

広報

中部の森林



愛知万博、自然の叡智をテーマに

自然との共生をめざして、国有林も連携

(ワーキングホリデーを開催)

地球市民村



ワーキングホリデー (下刈り)



キッコロと一緒に



ワーキングホリデー (鎌の刃研ぎ)

(P 2 に関連記事)

主な項目	○愛知万博 自然との共生めざし、国有林も連携 P 2
	○平成17年度永年勤続職員表彰式 P 3
	○各地からのたより P 4



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

愛知万博に国有林も連携

愛知県において「自然の叡智」をテーマとして、万国博覧会が開催されています。(会期は九月二十五日まで)

この博覧会の特徴は、人と自然の共生を目指して、施設等の設置から入場者のマナーに至るまで自然や環境を意識したものとなっています。中部森林管理局では「国民の森林」を目指している国有林として積極的に連携を図っています。

今回は、万博関連イベントで中部森林管理局として関わってきた主なイベントについて紹介します。

「2005年日本国際里山保全

ワーキングホリデー 定光寺自然休養林

「名古屋事務所」七月九・十日の二日間にあわたり、(社)国土緑化推進機構とNPO法人「森づくりフォーラム」などによる「2005年日本国際里山保全ワーキングホリデー」が、「愛・地球博」関連事業として定光寺自然休養林(瀬戸国有林)において行われました。

「ワーキングホリデー」は、森林ボランティア・森林NPOが大きく躍進するために、国土緑化推進機構と森づくりフォーラムが、英国最大の環境保全NGOのBTCVと共同で企画したものです。

九日の開会式では、国土緑化推進機構

大島常務理事と山崎信介名古屋事務所長が「この機会に森林について関心を持っていただくことが大切なこと」と挨拶されました。続いて運営主体となる名古屋シティ・フォレストクラブから作業についての説明や鎌の扱い方等の注意があり、その後、作業地へ移動しました。一般公募による参加者と倶楽部員スタッフ合わせて約三〇名が小雨の降る中、下刈鎌を手に大粒の汗を流しながら笹などの下草を刈り払いました。



下刈作業後の記念写真

当作業地は、昨年十一月七日「愛・地球博瀬戸の森づくり」事業で一般参加者約二〇〇人がヤマザクラやミツバツツジを植樹体験した会場の一角で、今回の参加者の中には、「昨年自分で植樹したところなので下刈りも自分でやりたい。」と参加された人もいました。下刈作業に

は、BTCV国際リーダーのタニー・フレッチャーさんも加わり、英国には無い笹の刈払いに挑戦し、参加者とともに汗を流しました。

また、下刈作業の外に歩道整備の作業も行われました。



BTCV国際リーダーのタニー・フレッチャーさん

愛・治山フェスタで 森林の重要性PR

「名古屋事務所」七月二・三日、瀬戸市文化センターにおいて「愛・治山フェスタ」が開催されました。

明治初期にはげ山となっていた会場周辺の丘陵地の緑化が治山事業により成功してから百年目にあたる今年、万博開催を機に治山事業の功績を伝え、緑を保全する大切さを考えてもらおうと、愛知県及び瀬戸市主催で行われたものです。当所も紙芝居やパネル展示等により森林の

機能や重要性についてPRしました。

また、クラフト教室では当所職員の指導による輪切り板に万博キャラクターのモリゾウ・キッコロを描く「ステンシル」や木の枝を利用した「ストラップ」作りに子どもたちの人気が集まり、二日間で当所のブースに延べ一三〇人以上の人たちが訪れ、休む暇もなく対応に追われました。



クラフト教室の様子

「愛・地球博」会場への ペットボトル等の持ち込み禁止

「愛・地球博」会場内では、ペットボトル・瓶・缶類については、容器に危険物を入れて会場内へ持ち込まれる可能性が懸念されるほか、容器ごと放置される例も散見されることから、会場内への持ち込みを原則禁止しております。



局幹部と精勤章（一級）を受章された皆さん

平成十七年度
永年勤続職員表彰式
永年にわたる
勤労を称える



局幹部と精勤章（二級）を受章された皆さん

六月二十三日、平成十七年度中部森林管理局永年勤続職員表彰式が、長野市内メルパルクNAGANOで行われました。

式典では、関局長から一級精勤章受章者並びに二級精勤章受章者に対し、永年にわたる国有林職員としての勤労を称えるとともに、精勤章の賞状が授与されました。

また、受章者を代表して総務課の有井寿美男さんから「今まで培った知識や技術を遺憾なく発揮していくことを本日の受章を機に改めて心に誓い、更に職務に精進する。」との謝辞が述べられ、表彰式を終えました。

精勤章受章者は次の方々です。

◇一級精勤章

(勤続年数三十年以上)

- 技 傳村 充善 (企画調整室)
- 技 有井寿美男 (総務課)
- 技 清水 賢三 (販売課)
- 技 水野 利彦 (治山課)
- 技 高見 公一 (名古屋所)
- 技 洞口 儀弘 (〃)
- 技 新木 昭一 (〃)
- 技 藤井 四郎 (中信署)
- 技 瀬下 明久 (東信署)
- 基 鈴木 茂 (〃)
- 基 塩川 正幸 (〃)
- 基 木内 一郎 (〃)
- 基 松井 秀雄 (〃)
- 基 海瀬 進 (〃)
- 基 安原 清文 (木曾署)
- 基 松原 栄一 (〃)
- 基 中村 由一 (〃)
- 基 古瀬 隆雄 (〃)
- 基 古瀬 隆男 (〃)
- 基 西 道和 (〃)
- 基 中谷 勝俊 (〃)
- 基 古田 實信 (南木曾支署)
- 基 神本 好美 (〃)
- 基 佐々木清春 (〃)
- 技 飯村 清 (飛騨署)
- 技 加地 英孝 (東濃署)

二十六名

◇二級精勤章

(勤続年数二十年以上)

- 技 寺沢 正樹 (職員厚生課)
- 技 駒瀬 勉 (指導普及課)
- 技 北村 大 (〃)
- 技 郷原 辰実 (国有林野管理課)
- 技 原 秋博 (治山課)
- 技 梅田 英孝 (名古屋所)
- 技 松井 浩樹 (愛知所)
- 技 大橋 孝宏 (北信署)
- 技 野口 和幸 (東信署)
- 技 渡澤 徹 (〃)
- 技 大藏 克育 (南信署)
- 技 南坂 博和 (〃)
- 技 井口 智 (木曾署)
- 技 小沢 啓一 (〃)
- 基 上原 幸雄 (〃)
- 技 開藤 秀昭 (南木曾支署)
- 技 熊澤 智史 (〃)
- 技 中野 尚之 (〃)
- 技 所附 泰幸 (飛騨署)
- 技 辻井 正徳 (岐阜署)
- 技 松田 恵 (東濃署)
- 技 羽田野幸保 (〃)

二十二名

各地からのたより

栃尾小学校児童が「遊々の森」において体験活動

【飛騨署】六月十五日、栃尾小学校の四〜六年生三十一名が穂高国有林「遊々の森」で体験活動を行いました。

この活動は、生徒が共通の趣味や関心をもつクラブに入り、自発的に活動する中で、自主性や社会性を養うものです。

児童達は、①つりクラブ ②自然クラブ ③アドベンチャークラブ ④工作クラブの四つのクラブに分かれ、講師は、学校の先生、ロープウェー会社の職員、当署職員が分担しました。

当署担当の工作クラブでは、木の枝を組み合わせた掛札や木ポックリの人形、輪切り板を張り合わせて動物の顔等を作りました。

児童達は、愛犬の名前や顔を折り込んで思い思いの作品を、鋸やナイフを器用に使い完成させていきました。

閉会式で各クラブの児童から、掛札や木ポックリ、動物の顔などの作品を披露しながら「手づかみやつりで魚を捕り、サンショウウオも捕まえた。」「山菜を教えてもらい、ニセアカシアの花びらの天ぷらが美味しかった。」「橋を完成し、道をならし、ベンチも作った。」等の体験活動の発表を行いました。

それぞれのクラブからは、「楽しかった。」「次回の行事も楽しみにしています。」「この言葉が聞かれました。」との言葉が聞かれました。

梅雨空から徐々に天候が回復し、雨上がりの緑が映える豊かな木立の中で、終了時間をオーバーするクラブもあり、皆元気に楽しく活動できました。

また、七月七日には、穂高・焼岳国有林において、栃尾小学校の五年生十四名が、「遊々の森」における森林体験学習の一環として、飛騨森林管理署主催の

「治山教室」と「森林パトロールボランティア活動」に参加しました。

児童達は、午前中に穴毛谷治山施工地で、森林の働きや治山工事の必要性について、模型実験を交えながら学んだ後、治山ダムの中に溪畔林を育成するため、ヤマハンノキやブナ等の苗木一〇〇本の植樹と併せ、昨年の五年生が植樹した苗木に肥料を施しました。

午後からは新穂高ロープウェイ西穂高口駅に移動し、高山植物保護や美化活動を目的とした、同署の森林パトロールボランティアとして活動している「ふわく山の会」の会員七名とともに、ゴミ袋を片手に、駅周辺の清掃活動や樹名板の整備等を行い、森林パトロール員として活躍しました。

午後からあいにくの雨模様となりましたが、最後の反省会では、「森林が災害から守ってくれていることが、実験でよく解った。」「高山植物を大切に将来に残したい。」等の感想を一人一人が述べ、一日の活動を終えました。

栃尾小学校の五年生は、こうした「遊々の森」における森林体験学習を年に五日間計画しており、今後「平湯大ネズコ」の保護活動等を行っていくこととされています。



思い思いに作った工作



治山教室の模型実験の様子



トレイルフェスティバルが開催 〔信越トレイルの供用開始〕

〔北信署〕 七月二日、斑尾高原において「次世代に引継ぐ自然と文化」と題してトレイルフェスティバル2005が開催されました。

平成十二年度から始まった長野、新潟県境関田山脈を中心としたトレッキングルート（信越トレイル）づくりは、国土交通省の地域連携プロジェクトの一環として、ルートに関わる北信・上越森林管理署、また、多くの市町村による連絡会を核に整備を進めてきました。

今回、メインルートの内、約六割の整備が終了したことから、一部供用が開始されました。トレイル整備の実施主体であるNPO法人「信越トレイルクラブ」が主催し、初日はシンポジウムを行い、自然の保全と利用のあり方等についての講演とパネルディスカッションを行いました。また、翌日から五日間かけて行程五十日のスルーハイイク・ツアーが実施されました。

初日のシンポジウムでは、県内外から二百五十人余りの参加により、日本トレッキング協会長の川島辰彦氏、作家の井出孫六氏及びネイチャーライターの加藤則芳氏がそれぞれの立場で講演が行われました。

(5) 平成17年7月
講演者からは、信越両県に跨っている地理的關係、関係行政との連携、地域・

地元との関わり、ボランティア主体の整備活動等に触れ、これからのトレイル整備のモデルケースであるとの評価がありました。

信越トレイルクラブの理念は、自然への負荷を最小限とし、自然環境の保全に努めながら、地域の歴史・文化資源を守り、継承していくことを基調としています。

ルートの約三分の二は国有林であることから、昨年、北信・上越森林管理署と同クラブとの間で整備等に関する協定を締結しています。今後も、関田山脈の豊かな自然の中を歩き、人間と自然とが共存する里山の機能を理解し、地域を含めた関係者と連携をとり、協働による魅力あるトレイルづくりを進めることとしています。

「木曾ヒノキ等の販売連絡会議」を開催

〔販売課〕平成十六年度に、林野庁、近畿中国森林管理局、中部森林管理局及び名古屋事務所の構成で設置した「連絡会議」は、平成十七年度から四国森林管理庁の参加を得たことから、名称を「木曾ヒノキ等天然林及び高齢級人工林材等銘木販売連絡会議」と改め、第一回会議を六月十五日から十六日の二日間、著名な神社仏閣や重要な建造物等を多く有する近畿中国森林管理局において開催されました。

一日目の前半は、林野庁から文化財関係等の情報、各局における銘木等の生産販売戦略等の情報及び意見交換を行いました。後半は、財文化財建造物保存技術協会大阪支部長 若林邦民氏を迎え、文化財の補修についての現状や補修に係る資材の確保に対する国有林の役割や要望等についての意見交換を行いました。

二日目は、著名な神社仏閣に製品の納入を行っており、国有林においても木曾ヒノキや天然木等の素材の購入実績がある製材業者から、木曾ヒノキ、吉野ヒノキ等銘木の動向、国有林に対する要望等について意見交換を行いました。最後に、世界遺産に登録され

「天平の甍」の呼び名で親しまれ、現在、保存修理事業が行われている国宝「唐招提寺・金堂」（奈良時代に建立された金堂として唯一の遺構）において、奈良県教育委員会事務局文化財保護事務所主任技師 松井正和氏の案内で、解体修理に使用される木材の調達、使用状況、材種・形状等細部にわたって説明を受け、組み立て作業中の現場を視察しました。

中部局は、神社仏閣等の補修用材等へ木曾ヒノキ等の需要拡大を図るため「ひのき」、「木曾の国有林材」等のパンフレットにより説明を行い、積極的なPR活動を展開しました。



シンポジウムのパネラー



唐招提寺・金堂の解体修理の状況

高山植物等保護対策協議会

総会を開催

「国有林野管理課」六月十七日、中部森林管理局大会議室において、平成十七年度「高山植物等保護対策協議会」（高植協）の第四十四回目の総会が開催されました。

本協議会は、昭和三十七年に長野営林局、長野県及び環境省の前身として厚生省が、高山植物等の保護活動等に取り組むために設置されたものです。

総会には、長野県自然保護連盟会長を始め二十八名が出席し、会長代理として笹岡環境省中部地区自然保護事務所長の挨拶に続き、平成十六年度事業・会計の報告及び平成十七年度事業計画・予算案が提案され審議の後、承認されました。

審議では、近年増えているペットの連れ込み問題、高山植物の踏み荒らしが際だつ事から、あらゆる機会や場所でのPR活動が必要といった意見が出されました。

この高植協の活動は、長野県下の各森林管理署の管轄区域を単位に、関係市町村、自然保護団体、山小屋などにより構成されている「地区協議会」が主体です。委嘱されたボランティアの監視員が、県の自然保護レンジャー等と共に、高山植物等の保護活動に取り組んでいます。

平成十六年度の長野県山岳地への入り込み者数は前年比九%増の一、五八九万

人で、処分及び指導者数は四、八八九人と昨年比十三%減少しています。

違反者数の減少は、モラルの向上といった面もありますが、地域によっては目に付きにくい場所での盗掘跡が増加している等、違反の巧妙化といった報告や、指導内容の無許可採取が前年に比べ四倍に増加している事から、引き続き保護活動の強化の必要性が報告されました。



総会の様子

高植協の平成十七年度の事業計画としては、

- 一 高山植物等の保護思想の高揚
- 二 高山帯へのペットの連れ込み自粛に対する指導
- 三 保護パトロール強化及び強化週間の実施

等を目標に、協議会から観光業者等へ

高山植物等の保護指導の要請、各地区協議会による保護パトロールの強化、ペット連れ込み自粛の呼びかけを行う等の啓発活動を行っていくこととしています。

「ヨイサー」ヨイサー

「御柱の森を訪ねて」

第一回森林倶楽部

「指導普及課」森林倶楽部の第一回イベント「御柱の森を訪ねて」を六月十一日に長野県下諏訪町で開催しました。会員百十三名が参加し、局、南信署、地元御柱の森づくり協議会等の案内により東侯国有林の柵木場から「御柱の森」までを十三班に分かれ、トレッキングを実施しました。各インストラクターから、「初夏の植物」、「木の文化を支える森づくり」、「森林の働き」等の説明がされ、昨年の御柱祭における下社春宮三のモミの伐採跡地までゆっくりとトレッキングしました。昼食後は、下諏訪町木遣保存会による木遣りが披露され「ヨイサー」の掛け声に合わせて、会員みんなで威勢良く声をかけ合いました。その後、将来の御柱の材になるようにと、ウラジロモミの苗木を各班二本程度植え、その前で記念写真。帰りは柵木場までトレッキングの後、木落坂に移動し、その急坂のすごさを体感。諏訪大社下社秋宮に参拝し、イベントを終りました。「国有林の取り組みを学ぶことができた。」「歩く速さもゆっくりで十分森林浴が楽しめた。」

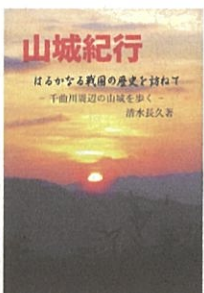
「木遣りが良かった。」小学生の参加者は「木を植えたのが楽しかった。」などの好評をいただき、楽しい一日となりました。



ウラジロモミの植樹 (大きくなあれ)

「山城紀行」を発行

「OBから」昨年三月に中部森林管理局計画課を最後に退職された清水長久さんは、約十年前から山城に興味を持ち、主に千曲川流域の山城について研究を進めてきました。今回、信州の豪族と武田信玄、上杉謙信との関わり、服従と没落の歴史を調べ、現存する山城について歴史と現状、植物、風景等についてまとめられ、「山城紀行」を自費出版されました。



神秘的山里と苗場湿原

ふう けい き こう
風景紀行
神秘的山里と
なえ ば しつ げん
苗場湿原
北信森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

「北信署」長野県の最北端に位置する秋山郷は、苗場山と鳥甲山に挟まれた谷あいの山里で、栄村側の五集落（小赤沢、屋敷、上野原、和山、切明）と新潟県津南町側の七集落の総称で、平家の落人伝説が残る秘境の地として知られています。「実（げ）」に無人の佳興に入りて命の洗濯する心持ちなり」江戸の文人鈴木牧之が、見聞録「秋山紀行」で秋山郷をこのように紹介しています。

素朴で暖かいもてなしを受けた牧之に、「命の洗濯にもう一度来たい」と言わしめた山里であります。地理的・気候的に厳しく、他地域との交流もままならなかったことから、今なお古き良き生活文化が多く残されており、訪れる人々に感動を与えてくれます。

集落の背後に鎮座する苗場山は、信越県境に跨がるどっしりとした量感ある山です。岩陰のヒカリゴケや、清楚なシラ



ワタスゲが誘う夏の苗場湿原

ネアオイなどを眺めながら上りつめた山頂からの眺望は圧巻で、近くに鳥甲、佐武流などが見え、また遠くには妙高や谷川・北アルプスの連峰が望めます。
標高二千mを超える頂上台地には、オオシラビソの原生林に囲まれた六百鈔にも及ぶ広大な高層湿原があり、大小無数の池塘（ちとう）が静かに水を湛えています。その池塘には「ミヤマホタルイ」が群生していて、その様はあたかも「苗場」のようです。
その他、湿原には純白のワタスゲを始め、イワイチョウ、チングルマ、ヒメシヤクナゲなど可憐な高山植物が咲き乱れ、また、秋のベニサラサドウダンの鮮やかな深紅は筆舌です。



サラサドウダンが紅葉する秋の苗場湿原

今年度から環境保全と利用者配慮して、湿原内の一部の歩道について、木道整備が始まります。

アクセス方法

上信越道飯山豊田インターから、国道117号を千曲川沿いに40分程度下ると新潟県津南町に着きます。そこから国道405号線を中津川沿いに25分ほど上流に進むと「秋山郷」小赤沢集落に着きます。苗場登山口（三合目）から、3時間程度で湿原に到着です。

行事・イベント等の予定

- ◎森林ふれあい講座
8月21日 愛知所管内
- ◎教職員を対象とした森林・林業体験学習会
8月4日 木曾署管内
8月11日 中信署管内

間伐材印刷用紙の利用

中部森林管理局では、広報「中部の森林」の7月号から間伐材印刷用紙（市場回収古紙九十％十間伐材パルプ十％）を使用することとしました。

この間伐材印刷用紙を使用することにより、間伐材や間伐材利用の重要性をPRし、間伐及び間伐材の普及啓発を図ることとされています。



カルガモのヒナが孵りました

【広報室】 中部森林管理局の玄関横の池でカルガモのヒナが孵りました。

今まで当池では、カルガモが営巣したことはなく、六月十三日頃に卵を生み、始めはカラス（推定）などに卵を取られた形跡もありましたが、十個の卵を温め続け、職員一同見守っていたところ、七月十二日に八羽のヒナが孵りました。

小さな池ですが、親ガモについてかわいらしい姿で泳いでいます。

これから池を離れて旅立ちますが、その日まで楽しませてくれそうです。



作品募集

森林の絵画 コンクール

幼児及び小中学生の皆さん！

森林に対する思いを描いてみませんか、あったらいいなこんな森林“そんな夢のある森林を”

●テーマ等

・テーマ

森林へ行った時の楽しい思い出や「こんな森林があったらいいな、こんな森林をつくってみたいな」という夢のある絵とします。

・応募作品

4つ切りサイズ以内の画用紙に、クレヨン、パステル、水彩絵具、色鉛筆等で描いた未発表作品とし、応募点数に制限はありません。

・応募資格

幼児及び小・中学生とします。

《幼児、小学生低学年（1～3年生）、小学生高学年（4～6年生）、中学生

に区分）

●応募方法

・応募票

応募票に氏名等を記入し、作品と一緒に送ってください。

なお、作品は折れ目の付かないようにしてください。

応募票は、ホームページからも入手できます。

ホームページアドレス

<http://www.mori758.go.jp/>

・締切

平成17年9月20日（火）

・応募先

〒456-8620

名古屋市中熱田区熱田西町1-20

中部森林管理局名古屋事務所内

「森林の絵画コンクール係」宛

TEL052-683-9206

●入賞者の発表と表彰

・発表：10月初旬

・表彰：入賞作品は、各区分（4区分）5点以内とし、中部森林管理局長賞・

中日新聞社賞・中部日本治山治水連盟

賞の賞状及び楯を授与します。また、

協賛各社による副賞を贈呈いたします。

なお、表彰式については別途入賞者にお知らせします。

・入賞作品の展示：森林交流館（愛知県瀬戸市川平町1番地）で展示予定

●作品の版權等

・応募作品の著作権・版權は中日新聞社・中部日本治山治水連盟・中部森林

管理局に帰属するものとします。また、

直接応募先まで受け取りにこられた方を除き、原則としてお返しできません。

主催

林野庁中部森林管理局名古屋事務所

中日新聞社・中部日本治山治水連盟

協賛

ぺんてる株式会社